



田中みきお
の約束

「市民が誇れる

一流の田舎を目指して」

～ウィズコロナのまちづくり～



市民が誇れる「一流の田舎」を目指して ～ウィズコロナの幸せなまちづくり～

平成20年11月28日、2代目南砺市長として就任し、3期12年の間、市民の皆様並びに議会の皆様のご理解とご指導をいただきながら「市民の幸福感と満足感の向上」のため、市民ファーストはもちろん「不安・不満・不信」の「不」を取り除き「安心感・満足感・信頼感」を感じていただける市政に邁進してまいりました。

懸案でございました統合庁舎も本年7月1日から福光庁舎でスタートを切ることができ、現在は、庁舎機能がなくなった地域の活性化策の取りまとめとまちづくりの支援策について検討を進めています。

現在のところ基金残高、起債残高及び財政指数などから健全な市政運営をさせていただいておりますが、公共施設再編計画を確実に進める中で、新たに市立病院の将来のあり方や学校のあり方などの検討を進めていきたいと思っております。

これまで人口減少、少子化及び高齢化社会の問題や世界的な環境問題に向けて南砺市独自の施策に積極的に取り組んでまいりました。しかしながら、移住者は増えているものの、課題である人口減少に歯止めはかかっておりません。

今後、第2次総合計画を確実に進め、目標達成に向けて成果を出してまいります。

昨年から今年にかけて、市内31地区全てで南砺型小規模多機能自治「まちづくり協議会」が立ち上がり、従来の自治振興会・公民館・地区社協が一つとなり、住民自治のあり方が変わりました。また、その住民自治を支える中間支援組織として「(一社)なんと未来支援センター」も立ち上がり、文字どおり市民の皆様と行政との「総働のまちづくり」がスタートを切っております。これも大きな変革です。取り組んでいただきました市民の皆様に敬意と感謝を申し上げます。

昨年7月に政府が進める「SDGs未来都市」に選定いただき、同時に「自治体SDGsモデル事業」にも認定いただきました。2030年に向けて「誰ひとり取り残さない」をモットーに、全国のモデルとなるよう取り組んでまいります。SDGsの取り組みは、以前から取り組んできた南砺市独自の施策である「エコビレッジ構想」の延長線上の取組であり「環境・社会・経済」の三側面の中で、環境施策はもちろんですが、住民自治の関わり方や支援センター及びまちづくり基金などとの連携が高く評価されました。

南砺市は大きな可能性を持っています。そして「地域社会・文化風土に基づいた、地域資源を生かした多様な地域づくり」の中で、若者が多様な暮らし方を選ぶことができるまちづくりを進めるべきです。

また、今を生きる私たちは、未来を担う子供達に何を繋ぐか？残すか？ということを実際に考える責任があります。また、次代に南砺市の「誇り」を引き継ぐことこそがまちづくりの柱になるべきです。

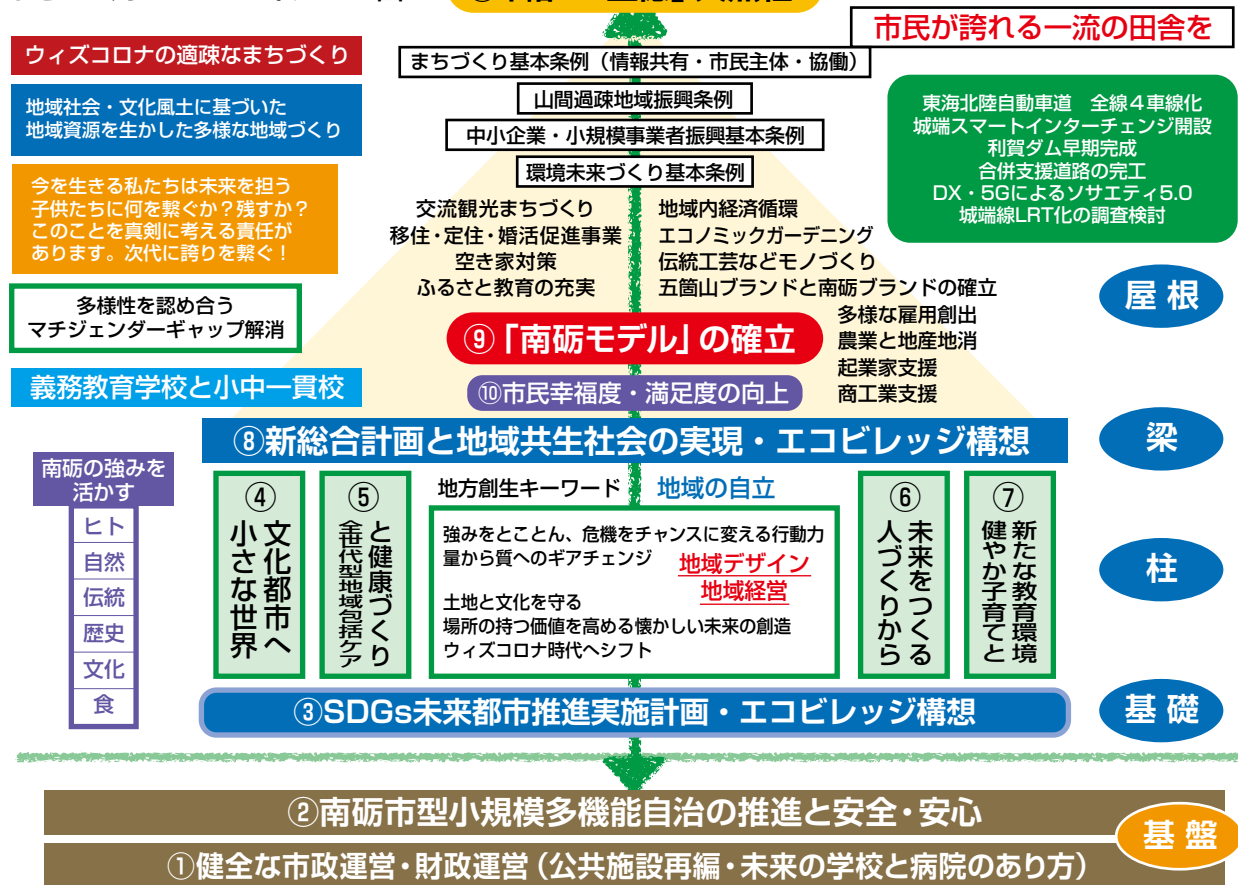
今後は、コロナ感染対策、地域経済対策は継続して取り組み。合わせて「ウィズコロナのまちづくり」を進め、市民幸福感を更に高めることに全身全霊を捧げることをお約束します。

田中幹夫

I ウィズコロナの南砺モデル2020イメージ図 説明

まちづくり2020 イメージ図

⑪「結い・土徳」大黒柱



■政策の基盤 (基盤)

① 健全な市政運営・財政運営 (公共施設再編・未来の学校と病院のあり方)

■南砺市定員適正化計画

平成17年から令和2年 職員数303人減 令和12年までに101人の削減計画

■第二次南砺市公共施設再編計画 (令和27年までに約半分に)

現在令和2年度までの短期期間中。達成率31% (R2.6月末)

■起債残高

平成20年度 945.3億円から令和元年度末724.4億円 220.9億円減額
(合併特例債 約320億円 含む)

■基金残高

平成20年度 162.6億円から令和元年度末254.9億円 92.3億円増額

■実質公債費比率

平成20年度19.8から令和元年度4.3に改善。

現在の財政指数などを見ると行財政改革、定員適正化計画及び事業の見直しなどの効果が出てきており、財政状況はおおむね良好であり、不測な事態が生じた場合でも弾力的な財政運営が可能です。

しかしながら合併の優遇措置も完了し、人口減少の影響で地方交付税は今後減額となることから、近い将来は厳しい状況となることが予想されますので、引き続き公共施設再編や行財政改革を進めなくてはなりません。

大きな課題であった統合庁舎ではありますが、市民の皆様のご理解を得まして、本年7月1日より福光統合庁舎での業務がスタートしました。窓口のワンストップ化、市民サービスの向上、危機管理体制の確立及び無駄の排除はもちろん、他の公共施設再編の確実な実行にも繋がるものです。

庁舎統合によって空いた旧分庁舎を中心としたまちづくり計画も各地で議論がなされています。市民の皆様とスクラムを組んで新たなまちづくりに挑戦していきたいと思えます。

統合庁舎は公共施設再編の大きな一歩です。これまで「桜ヶ池クライミングセンター」や「利賀めんめん館」などのように、民間企業に受けていただいて成功した事例もありますが、現在の計画の進捗は30%程であり、今後さらに公共施設再編を進めなくてはなりません。

また、市内に二つある市立病院について、県や医療圏で進める医療ビジョンとリンクした医療の量と質を確保しつつ、持続可能な病院のあり方を導き出して行かなくてはなりません。今年度は新たな病院改革プランを作成する予定であり、合わせて、来年度にかけて将来的な病院のあり方について様々な観点から議論を始めたいと思えます。

2 南砺型小規模多機能自治の推進と安全・安心

○協働のまちづくりから小規模多機能自治へ

「情報共有・市民主体・協働」を基本理念とした開かれた住民自治のため、「南砺市まちづくり基本条例」のもとで協働のまちづくりを推進してきました。数年前から市内31自治振興会の皆様と、課題解決型住民自治のあり方を考える検討を開始し、従来の自治振興会、公民館及び地区社協が一体となる「小規模多機能自治」型の住民自治に大きく舵を切っていただきました。平成31年4月1日に28地区、翌年令和2年4月1日に3地区が設立し、すべての地域で新たな住民自治組織「地域づくり協議会」がスタートしました。

住民自治組織は人口減少・高齢化の進む地域では互助団体として今後大きな成果をあげると確信しております。

○中間支援組織と資金提供団体が立ち上がる。

小規模多機能自治のスタートに合わせ、自治組織の運営を総合的にサポートし、協働して地域課題に対し提案・改善を行うコーディネートに取り組む「(一社)なんと未来支援センター」を設立しました。同時に、地域課題解決を資金支援する「(公財)南砺幸せ未来基金」が民間の皆様と協働で立ち上がりました。

○各地で通所型Bや災害時に対応する住民自治組織となる。

小規模多機能自治（住民組織）では、住民組織を担い手とした軽度者向け「通所型介護サービスB事業」の取り組みが市内8箇所で開催されました。また、独居老人世帯の除雪や災害時の支援など地区住民による互助の形が事業化されるなど新たな住民自治組織は今後さらに進化していくでしょう。

■政策の基礎（基礎）

3 SDGs未来都市推進計画・エコビレッジ構想

○南砺市エコビレッジ構想（平成22年度）

「小さな循環による地域デザイン」を基本理念に、私たちの地域にある資源を生かす施策に取り組んでいます。

基本方針は、

1. 再生可能エネルギーの利活用による地域内エネルギーの自給と技術の育成
2. 農林漁業の再生と商工観光業との連携
3. 健康医療・介護福祉の充実と連携
4. 未来を創る教育・次世代の育成
5. ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスによるエコビレッジ事業の推進
6. 森や里山と懐かしい暮らし方の再評価による集落の活性化

いろいろ進めてきましたが、その延長線上として、国連や政府が進める2030年に向けての持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取り組みが評価され、令和元年7月1日に内閣府から「SDGs未来都市」並びに「自治体SDGsモデル事業」に選定いただきました。（当時モデル事業は全国で20団体）

南砺市森林資源利用協同組合が民間で設立され、森林の生産材としての提供と、間伐材や製材所並びにバット工場などの余り材を利用して薪や木質ペレットを作り、燃料として利用する仕組みが立ち上がっています。

また、耕作放棄地を利用したワイナリーやオーベルジュなどへの民間投資が広がってきており、更には、南砺の全国的ブランドであります「富山干し柿」の乾燥施設などの建設も始まっています。

農業を取り巻く環境は依然担い手不足などの課題が大きいわけですが、コロナ禍の社会は、過密から適切な疎「適疎」を求めており、過疎地のピンチをチャンスに変えていきたいと思っています。「TOGA森の大学校」並びに「ワイナリー」のような事業や農林業者の移住と就農マッチング事業を進めながら、我々が永く守り育ててきた農林業の多面的機能「農村文明」の重要性を発信していくべきと考えています。

■政策の4本柱（柱）

4 小さな世界文化都市へ

南砺市は平成22年度に文化庁から16番目（現在43市町村）に認定いただいた「文化芸術創造都市」であります。

昨年は利賀村において「第9回シアターオリムピックス」を、ロシアとの2ヶ国で共同開催し、世界の舞台芸術の聖地としての地位を揺るぎないものとなりました。他にもワールドミュージックの祭典である「スキヤキミーツザワールド」や日本遺産井波にて4年に1度開催される「国際木彫刻キャンプ」など世界へ発信する文化があります。また、世界遺産合掌造り集落、五箇山民謡、ユネスコ無形文化財「城端曳山祭」、日本ユネスコ未来遺産「福野夜高祭」、各地の獅子舞などの伝統文化が共存する南砺市の文化的評価は全国的にも高く、そのレベルの高い文化を市民が認識し、子供達の豊かな心の醸成に繋げていきたいと思っています。また、観光面でもより広く発信し、継続できる仕組みを作っていきます。

現在、南砺市文化芸術振興基本計画とアクションプランの中で、政策の柱として取り組んでおります。

5 全世代型地域包括ケア推進と健康づくり

全国に先駆けて「地域包括ケアセンター」を設置し、市民の皆様と一緒に取り組んできた「南砺型地域包括医療ケアシステム」は全国のモデルとなっており、平成25年度には「第14回介護保険推進全国サミットinなんと」も開催しました。今年で12年目を迎える地域マイスター養成講座などを広め、南砺市の医療、福祉及び保健を一体的に取り組んでいきたいと思っています。

更には、進めてきた地域包括ケアシステムと住民組織の連携をさらに強くし、子育て、障がい者、生活困窮者、引きこもりの対応にも広げていきたいと思っています。

検診受診率は比較的高い南砺市ですが、今後も健康寿命延伸のために運動や食習慣など保健指導などにも力を入れ、健康で幸せな地域づくりを進めていきたいと思っています。

6 人づくりから未来をつくる

南砺には棟方志功さんや演劇の鈴木忠志氏などの芸術文化人が育つ素地があると思います。現在、企業誘致による雇用の確保を行っていますが、一方で移住定住策と共にクリエイターを集積する施策にも力を入れており、桜ヶ池にアニメ制作会社ピーエーワークスを誘致し、近接してクリエイタープラザをオープンさせています。伝統的のモノづくり職人と現代的アーティストのコラボなど新しい創造空間が生まれることを期待しています。

そうしたことが南砺市のイメージアップとなって、更に市内全域の空き家、空きビルなどを利用するクリエイターや起業家が集まることを期待しています。

本年、市内全域への光ファイバー整備が完了することから、市域全域で新たな事業展開が期待されます。既に井波には『Bed and Craft』という、アーティストに弟子入りできるゲストハウスが数件オープンしています。また利賀にも帽子作家、料理人、芸術家が、福光にもアーティストがカフェ&ギャラリーやゲストハウスをオープンさせています。

7 健やか子育てと新たな教育環境（義務教育学校・小中一貫校へ）

○子育て支援と教育

合併の大きな成果として保育園、小中学校及び子育て支援施設などの耐震化や長寿命化、エアコン設置など積極的に進めてきました。

これまで井口地域での義務教育学校の設置について早くから検討してまいりましたが、来春（令和3年4月）に「南砺つばき学舎」として開校予定です。

合わせて全ての地域で小中一貫校に向けて、既に検討、小中乗り入れ授業などを行なっております。

また、本年4月から複数担任制など南砺市独自の取り組みも始めました。同時に先生方の働き方改革も進めることでさらに児童生徒への関わりが広く深くなるものと考えています。

3年前から全国5市町で構成する「文化と教育の先端自治体連合（兵庫県豊岡市、北海道東川町、岡山県奈義町、香川県小豆島町、南砺市）」に加盟し、「非認知能力」に着目した教育についての研究や先進事例の調査を加盟自治体と連携して行なってきました。東京一極集中に象徴される日本の課題を経済の問題のみでなく、人間の心の問題としてとらえ直し、南砺市で暮らす固有の価値を、文化と教育によって創り出していきます。

また、本年11月には、子どもの基本的人権を発信する全国大会「子どもの権利条約フォーラム2020in南砺」を開催します。フォーラムに合わせて「南砺市子どもの権利条例」制定に向けて勉強・検討を始めています。

■政策の計画（梁）

8 新しい第二次総合計画と地域共生社会の実現・地方創生（人口ビジョン）

本年からスタートした第二次総合計画（資料1）を確実に進め、東京一極集中の是正と地方創生に取り組みます。

■重要事業（屋根）

9 「適疎」な南砺モデルの確立

★ウィズコロナ「適疎な七つ星の南砺」モデル ★★★★★★★

コロナは私たちの暮らしを「密」から「疎」へと誘導した。

今後南砺市は「ちょうどいい疎。適切な疎」「適疎なまち」をアピールしていきます。

★1 多様性・SDGs「南砺モデル」

SDGsモデル都市として「誰ひとり取り残さない」まちづくりを推進します。

エコビレッジ構想と小規模多機能自治を推進し、「環境・社会・経済」の三側面の融合を目指します。

ジェンダーギャップの解消に向けて進みます。

地域でお金が廻る「地域通貨」の調査研究を進め実装します。

地域づくり・まちづくりに女性や子供の意見が反映できる環境づくりを進めます。

誹謗中傷・差別のない地域づくりを進めます。

★ 2 地方創生「南砺モデル」

第二次総合計画の「将来像」（資料1）と市民の皆様と南砺に心を寄せて頂く応援市民の皆様で議論された「ローカルサミットnext in 南砺」実行委員会より発表された「南砺幸せなSDGs市民憲章」（資料4）を理解し、市民の皆様と共有し、**市民幸福感・満足感を高める地域づくり、まちづくりを進めていきます。**

★ 3 文化芸術「南砺モデル」

世界的演劇の聖地「利賀村」はシアターオリンピックスの成功を機に更に世界の注目を集める場所となりました。また、世界遺産五箇山はもちろん五箇山民謡、獅子舞、ユネスコ無形文化財「城端曳山祭」ユネスコ未来遺産「福野夜高祭」なども私たちの誇りです。

ワールドミュージックの祭典「スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド」や日本遺産井波の井波彫刻。五箇山和紙など**世界に誇れる文化芸術・伝統文化を核としたまちづくりを進めます。**

★ 4 安全安心「南砺モデル」

災害に強いまちづくりを進めます。ハード・ソフト事業のバランスと協働が大切です。

災害から住民を守り抜く地域力を高めるのは住民自治の力です。**今進めている小規模多機能自治の更なる推進をはかり。「お互い様の支え合い」で心豊かに暮らせるまちづくりを進めます。**

南砺型全世代型地域包括ケア・地域共生社会を構築します。

★ 5 学び・育み「南砺モデル」

義務教育学校と小中一貫の教育環境を確立し、複数担任制など新たなシステムづくりから子どもも先生も元気な学校を目指します。

親と子どもに寄り添う子育て支援をさらに充実させます。

令和元年より病児保育体制も出来てますが、今後は産後ケアの拠点整備を行います。

子どもの権利条例をつくります。（11月に全国子どもの権利条約フォーラム開催）

認知能力と非認知能力のバランスを考えた、文化と教育の先端教育を実践します。

★ 6 産業「南砺モデル」

県内・全国に先駆けて全域に光ファイバー整備は完了しています。今後は5GやICTを活用した**スマート農業やスマートシティを目指します。**また、テレワーク時代に向けてテレワークスポットの増設、WiFi環境の整備、AIチャットボットなどによる海外観光客の誘致、ワーケーションを進めサテライトオフィス誘致にも力を入れます。

既存企業の支援と企業誘致、そして**多様な働き場を提供できるよう民間事業者と連携します。**

伝統産業と新しい技術で販路開拓や新しい商品を創り出します。

★ 7 行財政「南砺モデル」

人口減少時代における持続可能な行政のあり方を徹底的に議論し、実行します。

医療、教育の充実と公共施設のあり方も今まで以上に深い議論を進めます。

10 市民幸福感と満足感を高める重要事業・施策を実行します。

○ハード事業

・東海北陸自動車道の全線4車線化と城端スマートインターチェンジ開設

昨年、東海北陸自動車道について大きく前進し、念願であった全線4車線化について「優先整備区間」に選定されました。残すところは、福光ICから南砺SICの間、約5kmのみが整備区間に入っていませんが、確実にスピード感を持って完全4車線化の実現に向けて取り組んでまいります。

合わせて城端スマートインターチェンジは、令和5年度完成に向けて、現在、測量設計が進められています。1日も早い供用開始に向けて取り組みます。

・利賀ダムの早期完成

利賀ダム工事に関しては、本年最後の計画変更が告示され、最終予算と令和13年完成が明記されました。また、工事用道路のトンネル工事も進み、一部（仮称）利賀トンネルの掘削に着手します。合わせて八乙女連絡道の可能性について検討します。

・市内の道路整備について

合併支援道路の整備が国・県によって進んでいますが、今後更に予算化を要望し、早期に完成するように取り組んでいきます。合わせて公共事業についても計画的に予算確保の上、積極的に取り組んでいきます。

金沢湯涌福光線など冬季間通行不可能な道路をはじめとした国・県要望箇所についても今後も粘り強く要望してまいります。

・デジタル革命（デジタル・トランスフォーメーション）や5Gを用いた社会に

スマート農業の推進をはじめ、オンライン教育、サテライトオフィス、テレワーク、医療・公共交通などデジタルによるウィズコロナのデジタルによる新しい生活を提案し、既存企業の支援、企業誘致などから雇用の創出を進めます。ピンチをチャンスに！

・城端線LRT化の調査検討

本年度より県と沿線4市でJR西日本から提案のあった城端線・氷見線のLRT化について本格的な調査検討に入りました。持続可能な運営について様々な課題がありますが、積極的に調査検討を進めます。

11 「結い・土徳」はまちづくりの大黒柱

南砺に古くから伝わる互助の仕組み「結い」と風雪の中でしっかり建つ合掌造り家屋の大黒柱が私のまちづくりの柱となります。

資料1 第2次総合計画 将来像

「誰ひとり取り残さない 誰もが笑顔で暮らし続けられるまちへ」

田園が湖面のごとくきらめく春、熱い鼓動に包まれる夏、哀愁の調べが彩る実りの秋、一面の雪景色に温もりが感じられる冬と、南砺市では、四季を通じて人と自然が調和し、悠久の時間が流れています。

わたしたちの南砺市には、豊かな自然の恵みをいただき、大自然に感謝する心や相手を思いやる「お互い様」の気質といった独自の精神がずっと息づいています。世界が認める合掌造り集落をはじめ、散居景観や伝統芸能、祭、食、ものづくり産業など、かけがえのない財産が数多く育まれています。

また、南砺市で暮らす人々は、奥ゆかしく、温かみがあり、忍耐強く、何事にも意欲に富んでおり、ここに生きる人そのものが、未来へとつないでいかなければならない私たちのかけがえのない財産です。

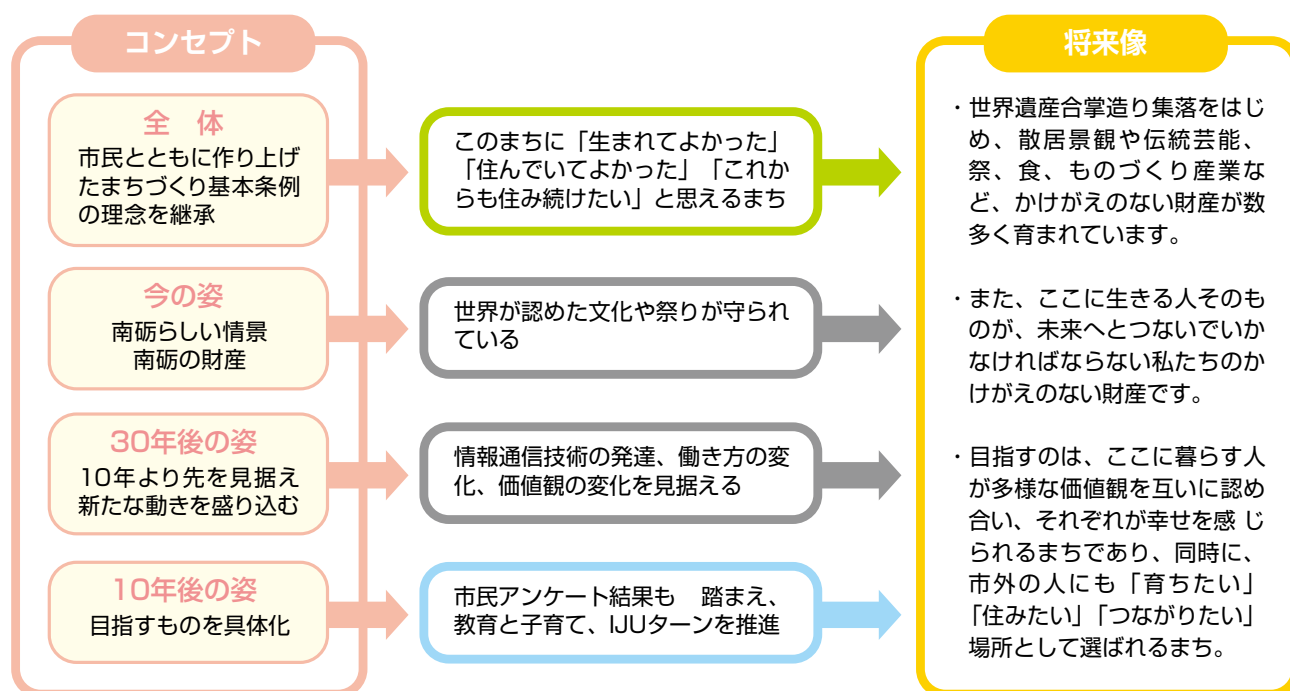
その一方で、少子高齢化や社会環境の変化など、南砺市を取り巻く様々なことが変わりつつあるなか、これらの財産を後世へと継承していくためには、市民一人ひとりの強い思いとたゆまぬ努力により、積極的に守り育てていくことが不可欠です。特に、自然との共生や環境への意識が高まるなかで、人と人、人と自然の関係を見つめ直し、地域資源を最大限に活用した循環型社会を構築する重要性は増すばかりです。

さらに、情報通信や人工知能（AI）などの技術進歩により、働き方や生き方、価値観などは大きく変わろうとしています。今の暮らしをより快適にしたい、場所を選ばず仕事がしたい、住むところを自分のスタイルで選びたいといった、人それぞれが求める多様な幸せのカたちを実現できる社会を築いていかなければなりません。

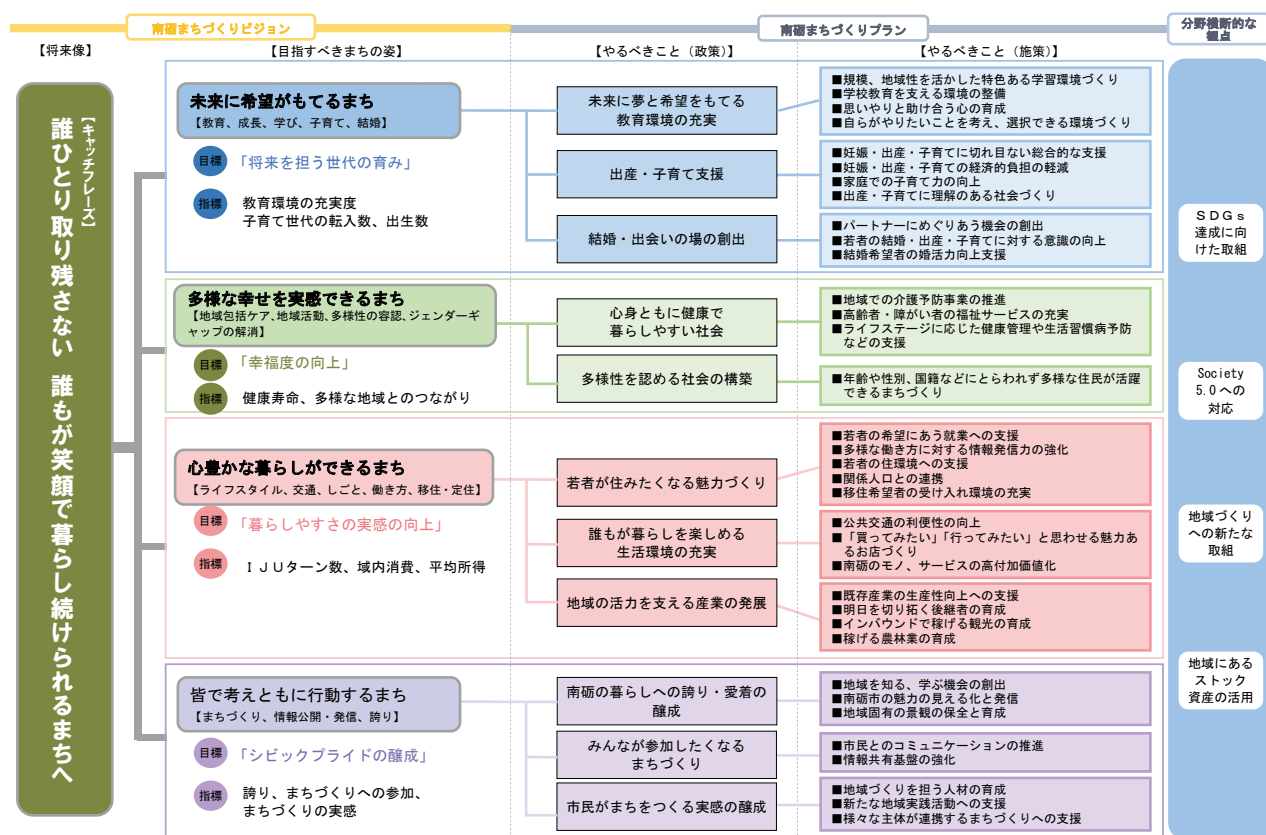
このような社会の流れのなかで本市が目指すのは、ここに暮らす人が多様な価値観を互いに認め合い、それぞれが幸せを感じ、「生まれてきてよかった」「住んでいてよかった」「これからも住み続けたい」と思えるまちであり、同時に市外の人に「ともに育ちたい」「住みたい」「つながりたい」場所として選ばれるまちです。

これからの10年間は、目指す将来像に向かい市民一丸となって、覚悟をもって取り組まなければならない極めて大切な時期です。自然や伝統、文化といった世界に誇れる財産を活かし、市民一人ひとりが互いに認め、支え合いながら行動していくことが必要です。「南砺」に暮らす私たちが、この土地の豊かさや暮らしに感謝と誇りをもち、互いを信頼し、誰ひとり取り残さない地域社会である「一流の田舎」を目指し、次代を担う子どもたちが笑顔で暮らし続けられるまちを実現します。

将来像（まちづくりビジョン）



総合計画の体系（全体像）



資料2 第2次総合計画 目指すべきまちの姿

①未来に希望がもてるまち

子どもは家族にとって大切な宝であり、子どもが夢や希望をもち、その実現に向かって成長していく姿は、家族だけでなく地域にとっても大きな希望となります。子どもたちへの教育や子育て環境の充実を図り、地域全体で子どもたちの育みを支える体制を整えるとともに、南砺で家庭を持ちたい、子育てしたいと思う若者の希望に応え、子どもたちが南砺に生まれてよかったと思える、希望に満ちあふれた地域づくりを進めます。

②多様な幸せを実感できるまち

地域に愛着をもち、互いに尊重し合い、安心とやすらぎを感じて生活していくことができ、「いつまでも、南砺で暮らしていきたい」と一人でも多くの人に思ってもらえるよう、福祉や医療の充実を図ります。また、年齢や性別、国籍をはじめ、多様な生き方や考え方を受け入れ、個性を認め合い、幸福感が得られる社会の構築を図り、自身の人生を振り返ったときに「このまちに住んでよかった」と思えるような地域づくりを進めます。

③心豊かな暮らしができるまち

市民が、豊かな自然や人のつながりのなかで南砺の暮らしを楽しみ、また、若者が南砺に住みたくなるような新たな魅力づくりを進めます。あわせて、ワーク・ライフ・バランスの実現と多様な働き方への支援を図り、都市基盤の充実をはじめ、地域活力を支える産業の振興や後継者の育成に取り組めます。また、市民が暮らしやすさを実感し、市外で暮らす方が南砺に興味をもち、移住や関係人口の増加につながる取組を進めます。

④皆で考えともに行動するまち

まちづくりは、そこに暮らす市民一人ひとりの地域を想う心や、相互の支え合いによって取り組まれています。そのため、地域への愛着や誇りの醸成、地域づくりを担う人材の育成を図るとともに、情報共有やコミュニケーションの充実、参加したくなるまちづくり方策を、皆で考えともに行動することで、市民と行政の協働による開かれたまちづくりを推進します。

未来に希望がもてるまち

未来を切り拓く
南砺っ子を育む



学校の CT 機器を整備



部活動の支援

子どもも親も
笑顔になれる
子育てしやすいまち



妊娠・出産・子育ての
切れ目ない総合的支援



中学生までの医療費無料化

結婚したい人が
結婚しやすい
環境づくり



ライフプラン
セミナー等の開催



婚活イベントの開催

多様な幸せを実感できるまち

誰もが活躍できる社会へ



介護予防活動を支援



健診の受診促進

誰もが認めあえる社会へ



外国人の受け入れ環境整備



ジェンダーギャップの解消

心豊かな暮らしができるまち

地域の活力を支える
産業の育成



農林業の担い手育成



企業誘致

誰もが暮らしを
楽しめるまち



公共交通の促進



商店の支援

若者が住みたくなる
魅力づくり



しごと探しへの支援



婚活イベントの開催

皆で考えともに行動するまち

南砺が大好きな
人を増やす



ふるさと教育



地場産農作物の
消費向上

まちづくりを
みんなで考える



まちづくりに関わる
情報発信



市民と行政の
話し合いの場づくり

みんなのみんなによる
まちづくり



小規模多機能自治の推進



新たな担い手の育成

南砺市SDGs未来都市



<将来ビジョン>

「南砺版エコビレッジ事業」の更なる深化
～域内外へのブランディング強化と
南砺版地域循環共生圏の実装～

南砺市の土徳文化を次世代に継承する取組みや支え合いによる
まちづくりの取組みを通して、地域資源の循環や相互補完が可能となる
人材育成プログラムや住民参加による自治組織形成を促進するとともに、
これらを基金運営等により支えることで、
SDGsおよび「南砺版エコビレッジ事業」を更に深化させ
「一流の田舎」を実現する。

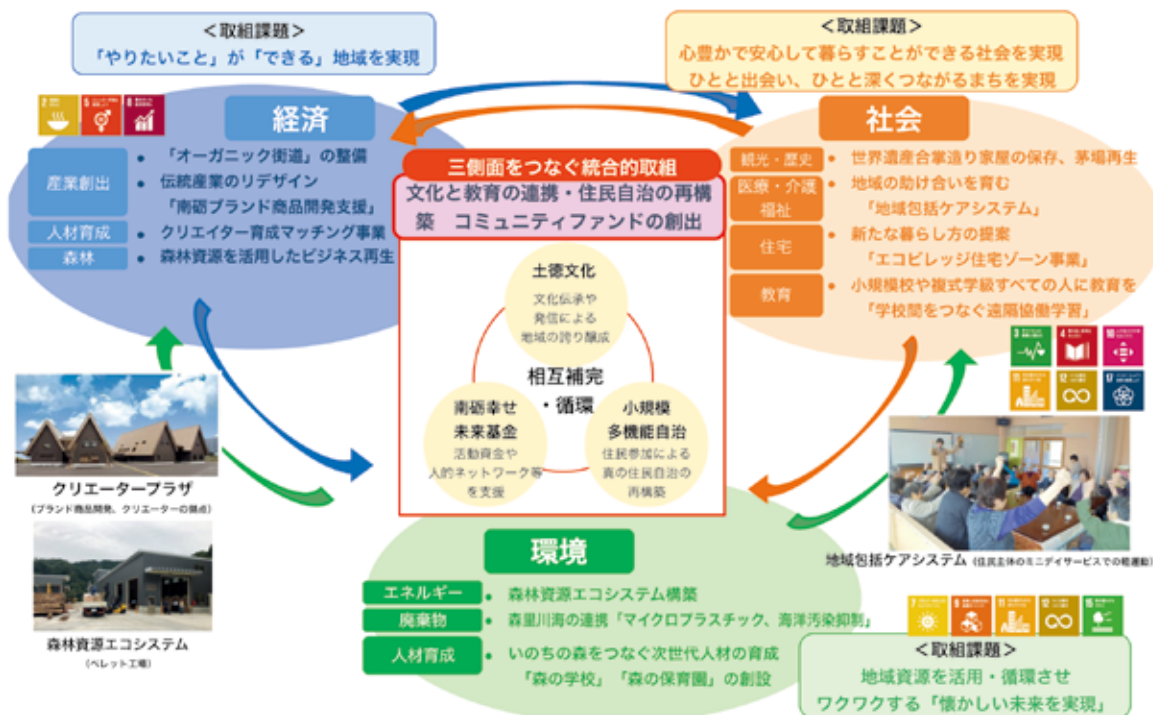
copyright© 2020 Mikio.Tanaka all Rights Reserved

SDGs南砺版地域循環共生圏



copyright© 2020 Mikio.Tanaka all Rights Reserved

2030のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット



copyright© 2020 Mikio.Tanaka all Rights Reserved

SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業の採択



SDGs未来都市

SDGsの理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、特に、**経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域**として選定

自治体SDGsモデル事業

- SDGs未来都市の中で実施予定の**先導的な取組**として選定
- 地方公共団体によるSDGsの基本的・総合的取組の中でも特に注力的に実施する事業であり、SDGsの理念に沿った統合的取組により、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い先導的な取組であって、多様なステークホルダーとの連携を通じ、地域における自律的好循環が見込める事業

南砺市は2019年7月、
「SDGs未来都市」と
「自治体SDGsモデル事業」
の**両方**に選定

2012年度から取り組んできた
内容が評価され、内閣府からの
SDGs未来都市選定につながった



2019年7月1日 首相官邸にて

「ローカルサミットnext in 南砺」

実行委員会より発表された「南砺幸せなSDGs市民憲章」

・土 徳

私たちは、長い歴史の中で育まれてきたこの豊かな自然景観との共生を図りながら、健やかで美しい暮らしと祈り、そして常に感謝を絶やさない土徳文化を、しっかりと未来世代へ継承していくことが何よりも大切であると考えています。

・農 業

私たちは、この豊かな農景観を未来世代に繋いでいくため、新しい経営の仕組みや技術を活用し、従来の取組を適切に見直しながら、地域の風土を活かしたいのちを育む農業を一層拡大し、次世代の担い手の育成と皆で誇りあう農の営みに努めていきます。

・芸術と産業

私たちは、日々の暮らしに根ざした多様な手仕事・モノづくりにこそ美が宿ると考え、南砺に根付く伝統芸能や祭りを子どもたちと一緒に次世代へ継承するとともに、都市との交流によって新たな創造を図ることで、これらに関わる南砺の人材が多く育つよう努めていきます。

・林業と自然

私たちは、この自然がもたらす森里川海の恵みを最大限感じ、活用していくため、上流から下流までの担い手のネットワークを見える化すると共に、森を創り、森を活かし、森に育てられる森林価値の最大化を図ることに努めます。

・地域教育

私たちは、家庭、地域教育こそが主役であると大人たちの意識を変えて、先人が守り育ててきた地域のDNAを次世代に繋ぎ、子どもたちの郷土への誇りと愛着をもった豊かな心と知恵を育む、人づくりを目指します。

・地域包括ケア

私たちは、全ての老若男女がこの地に誇りを持ち、笑顔があふれ、健やかに暮らしていけるより優しい地域とするため、声を掛け合い、おかげさま、ありがとうを交し合える取組みと併せて新たな交通手段の構築を進め、誰一人取り残さない社会の実現を目指します。

・観 光

私たちは、南砺にしかない一流の田舎の暮らしを観ていただくとともに、幅広い方々との多面的かつ持続的な交流を行うことで、地域の誇りの醸成、そして生活の質の向上につながるよう取組んでいきます。

・基金と小規模多機能自治

私たちは、地域内分権を進め、住民自治の浸透と行政、市民、企業、銀行、学校等との 協働の新たなまつりごとを基盤とし、そこから見出した様々な地域課題を地域内での資源と意思ある志金の循環を最大限図りながら、新たな生業の創出と南砺らしい地域循環共生圏の構築を目指します。

・I T

私たちは、通信技術等の進化を最大限活用し、南砺において最先端の情報の入手・交流が可能となる仕組み作りに注力し、次世代の教育・育成・交流を促進すると共に、防災等においてもレジリエントな地域づくりに努めてまいります。

・遊 び

私たちは、一流の田舎南砺が世界に誇れる豊かなふるさとであることを体感し、将来を担う子どもたちがこれからも暮らしていきたいと思える地域となるよう、南砺の恵み、原風景、美しさを活かした楽しい取組を皆で実践していきます。

南砺の大地に8つの根を張って、
しっかりした幹が、未来の
大きな実りをもたらせます。



田中幹夫 男の公約

みきお



●プロフィール

■生年月日

昭和36年9月23日（59歳）

■学歴

富山県立八尾高等学校（昭和55年3月卒業）
工学院大学工学部電気工学科（昭和59年3月卒業）

■職歴

昭和59年4月 YKK吉田工業入社（ファスナー技術部）
平成元年4月 利賀村役場に奉職
平成16年11月 南砺市議会議員に初当選
平成20年11月 南砺市長に初当選
平成24年10月 南砺市長に再当選（2期目）
平成28年11月 南砺市長に3選（3期目）現在に至る

■現職

全国治水期成同盟会連合会 理事
全国山村振興連盟 理事
全国治水砂防協会 評議員
全国ボート場所在市町村連絡協議会 顧問
一般社団法人 農村文明創生日本塾 代表理事
特定非営利活動法人 地域共生政策自治体連携機構 理事
東京オリンピック・パラリンピックを活用して 地域活性化する首長連合 副会長
富山県水源林造林協議会 会長
富山県治水砂防協会会長

私はこんな男です。

- ・そば打ちで地域おこし
- ・全国市町村交流レガッタ大会議員の部で全国優勝メンバー（平成17年）
- ・限界集落の挑戦！上畠アートの開催
- ・富山県スキー連盟役員として大会運営の影の力に！
- ・現役子育て期には活発なPTA活動
- ・交流による地域づくりを実践。ネパール・韓国・武蔵野市との交流
- ・グリーンツーリズムの実践

趣味／そば打ち（最近打ってない）
特技／ボート競技
家族構成／母・妻・長女・長男・次女
（3人の子供は既婚 外孫2人）
好きな言葉／「人に生かされ。人を生かす」「知足利他」
その他／高校時代はボート競技で全国大会出場



Ameba blog 「南砺市長 田中幹夫 ちょっと一息」
<https://ameblo.jp/nanto-tanaka>

田中幹夫オフィシャルサイト



Twitter



@tanakatoga

instagram



TANAKATOGA

facebook



田中幹夫
事務所

〒932-0231 南砺市山見746-3

TEL 0763-82-5296 FAX 0763-82-5294

詳しい「田中みきおの約束 政策集」はこちらからご覧頂けます

<http://www.tanakamikio.jp>

検索

